

平成25年度  
内灘町地球温暖化対策実行計画  
進捗状況報告書  
(区域施策編)

平成28年11月

石川県内灘町

# 目 次

(平成25年度)

1. 温室効果ガスの削減効果	1
2. 温室効果ガス排出実績一覧	1
3. 部門別温室効果ガス排出量	2
4. 部門別温室効果ガス排出量（平成25年度内訳）	3
5. 温室効果ガスの排出量推移グラフ	4
6. まとめ	5

# 平成25年度内灘町温室効果ガス削減効果

## 1. 温室効果ガス削減効果

温室効果ガス排出量は、165,468 t-CO<sub>2</sub>/年でした。目標達成まで 38,201 t-CO<sub>2</sub>/年の削減が必要です。

表 1

年度	排出量
目標（平成2(1990)年度相当）	127,267 t-CO <sub>2</sub> /年
対象年度 平成25(2013)年度	182,884 t-CO <sub>2</sub> /年
目標までの必要削減量	55,617 t-CO <sub>2</sub> /年

注 電気の排出係数は実行計画策定時が 0.432、平成25(2013)年度が 0.628 でした。

## 2. 温室効果ガス排出実績一覧

表 2

調査項目	平成2年度 (1990) (t-CO <sub>2</sub> /年)	平成20年度 (2008) (t-CO <sub>2</sub> /年)	平成24年度 (2012) (t-CO <sub>2</sub> /年)	対象年度 平成25年度 (2013) (t-CO <sub>2</sub> /年)	前年度からの 増減量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	前年度からの 増減率 (%)
ガソリン	20,917	30,994	29,694	31,822	2,128	7.17
灯油	11,543	14,160	13,223	12,665	-558	-4.22
軽油	19,417	19,159	16,689	16,950	261	1.56
重油	22,072	19,081	17,823	17,619	-204	-1.14
ガス	8,353	9,963	13,263	12,687	-576	-4.35
電気	35,986	56,685	67,615	84,475	16,824	24.87
メタン※ <sub>1</sub>	7,946	6,292	5,644	5,411	-233	-4.12
一酸化 二窒素※ <sub>1</sub>	158	143	130	129	-1	-0.77
HFC※ <sub>1</sub>	822	1,022	1,077	1,126	49	10.71
合計	<b>127,267</b> (目標値)	<b>157,587</b>	<b>165,468</b>	<b>182,884</b>	<b>17,690</b>	<b>-4.77</b>
目標までの 必要削減量	0	30,320	37,927	55,617		

注 小数点以下端数処理をしているため、実際の数値とは若干異なります。

※<sub>1</sub> 二酸化炭素以外の温室効果ガスを二酸化炭素に換算した値。

### 3. 部門別温室効果ガス排出量

表 3

単位：t-CO<sub>2</sub>/年

部門		平成 2 年度 1990 (t-CO <sub>2</sub> /年)	平成 20 年度 2008 (t-CO <sub>2</sub> /年)	平成 24 年度 2012 (t-CO <sub>2</sub> /年)	対象年度 平成 25 年度 2013 (t-CO <sub>2</sub> /年)	前年度 からの 増減量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	前年度 からの 増減率 (%)
産業部門		23,614	17,561	12,673	15,860	3,187	25.14
民生部門	家庭用	28,101	43,514	56,024	64,726	8,702	15.53
	業務用	28,452	15,539	20,075	20,700	625	3.11
	医科大		24,960	25,714	28,487	2,773	10.78
運輸部門		38,174	48,556	43,857	46,445	2,588	5.90
非エネルギー起源 温室効果ガス		8,926	7,457	6,851	6,666	-185	-2.70
合計		<b>127,267</b> (目標値)	<b>157,587</b>	<b>165,194</b>	<b>182,884</b>	<b>17,689</b>	<b>10.71</b>

注 小数点以下端数処理をしているため、実際の数値とは若干異なります。

※1 電気の排出係数については、実行計画策定時の係数を用いた場合の値。

## 4. 部門別温室効果ガス排出量（平成25年度内訳）

### エネルギー起源温室効果ガス排出量

表4-1

t

	燃料					電力	合計
	ガソリン	灯油	軽油	A重油	LPG		
排出係数 (単位)	0.0671 (t-CO <sub>2</sub> /GJ)	0.0678 (t-CO <sub>2</sub> /GJ)	0.0686 (t-CO <sub>2</sub> /GJ)	0.0693 (t-CO <sub>2</sub> /GJ)	0.0598 (t-CO <sub>2</sub> /GJ)	0.628 (t-CO <sub>2</sub> /MWh)	
産業部門	12	693	786	1,915	1,585	10,869	15,860
民生部門	家庭用	0	8,738	0	0	10,116	45,872
	業務用	0	3,234	1,529	3,001	922	12,014
	医科大	0	0	0	12,703	64	15,720
運輸部門	31,810	0	14,635	0	0	0	46,445
合計	31,822	12,665	16,950	17,619	12,687	84,475	176,218

注 小数点以下端数処理をしているため、実際の数値とは若干異なります。

### 非エネルギー起源温室効果ガス排出量

表4-2

t-CO<sub>2</sub>/年

平成25年度(2013年度)	温室効果ガス	排出量 (t)	CO <sub>2</sub> 換算
排水処理	メタン	2.46	51.59
排水処理	一酸化二窒素	0.41	128.56
水田	メタン	14.72	309.12
家畜の飼養	メタン	156.73	3,291.37
家畜の排せつ物の管理	メタン	83.78	1,759.36
冷蔵庫使用時の漏洩	HFC	0.0040	15.38
カーエアコン使用時の漏洩	HFC	0.2924	1,111.04
排出量合計			6,666.43

### 平成25年度温室効果ガス排出量

$$176,218 + 6,666.43 = 182,884 \text{ t-CO}_2/\text{年}$$

電気の排出係数について、実行計画策定時の係数を用いた場合の値。

$$149,853 + 6,666.43 = 156,519 \text{ t-CO}_2/\text{年}$$

## 5. 温室効果ガスの排出量推移グラフ

電気の排出係数を変動させた場合

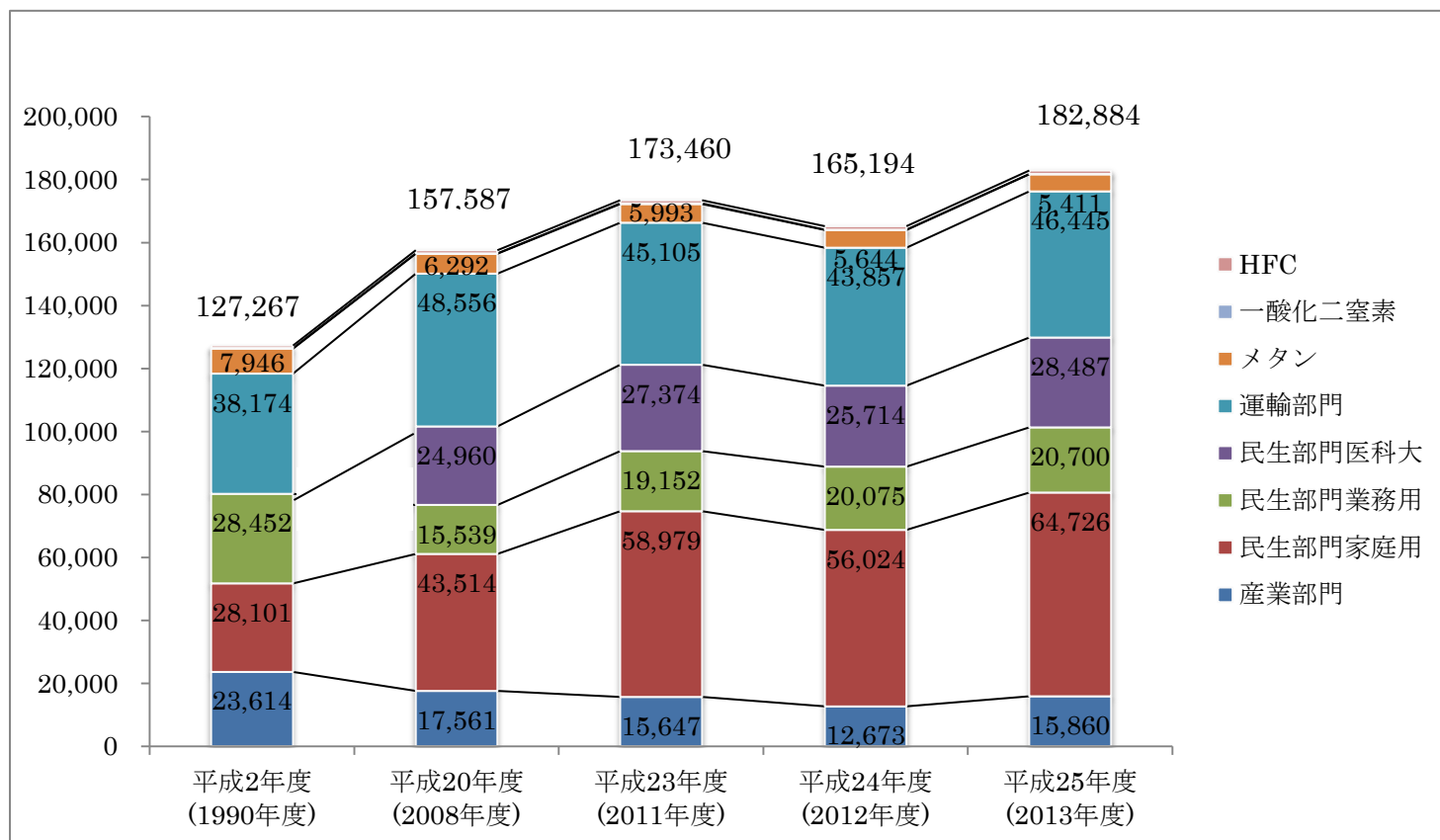
表5-1

t-CO<sub>2</sub>/年

年度	平成2年度 (1990年度)	平成20年度 (2008年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)	目標までの必要削減量	
	①				②	差引 ②-①=③	増減率 ③÷②
産業部門	23,614	17,561	15,647	12,673	15,860	-7,754	-48.9%
民生部門家庭用	28,101	43,514	58,979	56,024	64,726	36,625	56.6%
民生部門業務用	28,452	15,539	19,152	20,075	20,700	20,736	42.2%
民生部門医科大		24,960	27,374	25,714	28,487		
運輸部門	38,174	48,556	45,105	43,857	46,445	8,271	17.8%
メタン	7,946	6,292	5,993	5,644	5,411	-2,535	-46.8%
一酸化二窒素	158	143	133	130	129	-29	-22.9%
HFC	822	1,022	1,077	1,077	1,126	304	27.0%
合計	127,267	157,587	173,460	165,194	182,884	55,617	30.4%

注 電気の排出係数は平成2(1990)年度が0.413、平成20(2008)年度が0.432、平成23(2011)年度が0.546

グラフ5-1



## 6. まとめ

平成25年度の内灘町における温室効果ガスの総排出量は基準年度に比べ上昇しています。平成32年度の間目標（127,267 t-CO<sub>2</sub>/年）にはまだ遠く引き続き削減を進めていきたいと思ひます。

基準年度に比べ、産業部門のエネルギー使用量は最も削減されています。

基準年度と比べると、民生家庭部門の排出量が多、その中でも、大きな割合を電気使用量が占めています。さらに電気使用量減少させるためにもこれからは再生可能エネルギー導入のさらなる促進が必要となります。

また、石川県の家庭版環境ISOや町が補助事業を行っている住宅用エネルギーマネジメントシステムなどを活用することで、家庭の電気使用量を把握し、家庭の中から電気使用量を減らしていくことが可能となります。県と共同して電気等エネルギーの「見える化」を推し進め、環境の面にも、家計の面にも優しい取組にしたいと思ひます。

さらに、運輸部門のガソリンの使用量も増加しています。エコドライブの普及を行うことで、減少させていきたいと思ひます。

また、電気自動車の充電スタンドの設置などガソリン使用量削減にむけた取組を行っています。

今後とも、温室効果ガス削減に向け取組んでいきます。